

第28回農村医学会総会記録

越 山 健 二

第28回農村医学会総会は、昭和54年10月11日(木)～12日(金)の両日、徳島市郷土文化会館で例年通り盛大に行われた。富山県から豊田農村医学研究所長、林厚生連高岡病院長、石田富山市民病院長、県厚生連会長、参事、及び高岡厚生連高岡病院看護婦数名も参加された。その内容は既刊の日本農村医学会雑誌第28巻3号に詳記されているので詳しい事は省略する。

会員講演 203題もあり4会場が使用された。富山県農村医学研究会から3題の発表があった。「富山県農家世帯の糖尿病調査(第3報)」を石田礼二、「数量化Ⅲ類による糖尿病のパターン化と個別評価の試み」を越山健二が発表し、金沢大学から豊田文一が「へき地学童の耳鼻咽喉検診における10年間の推移」の発表があった。例年のことで感ずる事は、演題、参加者が多く年々大学関係者が増えており、各県の厚生連の方々の参加も目立った。経済成長発展の中で農民の健康意識の高まりと共に、この学会によせる期待と信頼が強い事を感じた。

徳島といえば数年前まで遠隔地の感をもっていたが、大阪から飛行機で僅か30分余り、本土からフェリー等の連絡が各方面からあり便利になっている。総会前日理事会、代議員会があり豊田理事、林、越山両評議員が出席した。恒例の議事のほか、55年の総会は旭川市で行われ、国際農村医学会は明年フランスのリエージュ市で行われる事、アジア部会はインドは無理である事、などが報告され、会議終了後徳島県農業団体や農村医学会主催の前夜祭が阿波徳島のシンボルの1つである眉山スカイランドで行われ、瀬戸内海や徳島市街を展望する中で活魚を満喫、阿波踊りや人形浄るりの披露もあり、参加者一同が夜遅くまでこぞって踊り出し会員相互の交換が行われた。学会長加藤和市氏のさわやか学会と銘打った計画が、学会の随処に感ぜられ、かたぐるしい開会の挨拶なども省略され、そのかわりに「阿波の医人」と題する学会長の話は興味深くはじめからさわやかな空気が会場いっぱい流れていた。会期中も好天に恵まれ成果の多い忘れがたい医学総会であった。